Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-06-21

発話態度と構文の日中対照ー特に人称表現に注目してー

張, 麗娜

(Degree)
博士（学術）

(Date of Degree)
2009-03-25

(Resource Type)
doctoral thesis

(Report Number)
甲4621

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1004621

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

氏　　名	張　麗娜
博士の専攻分野の名称	博士（学術）
学 位 記 番 号	博い第 4621 号
学位授与の 要 件	学位規則第 5 条第 1 項該当
学位授与の 日 付	平成 21 年 3 月 25 日

【 学位論文題目 】

発話態度と構文の日中対照－特に人称表現に注目して－

審 査 委 員

主 査　教 授　定延　利之
教 授　林　　博司
教 授　朱　　春躍
教 授　湯淺　英男
准教授　林　　良子

［課程博士用］

論文審査の結果の要旨

氏　名	張　麗娜		
論文題目	発話態度と構文の日中対照 —特に人称表現に注目して—		
判　定	合　格・不合格		
審査委員	区　分	職　名	氏　名
	主　査	教授	定延利之
	副　査	教授	湯澤英男
	副　査	准教授	林　良子
	副　査	教授	林　博司
	副　査	教授	朱　春曜

要　旨

本審査委員会は、張麗娜氏の提出した「発話態度と構文の日中対照—特に人称表現に注目して—」という題目の論文（以下、本論文と記載）を審査し、以下の結果を得た。

本論文は、現代日本語（特に共通語）と現代中国語（特に共通語）の人称表現を対照することによって、これまで光の当てられてこなかった「情動的」な発話態度と構文の結びつきの一端を明らかにしようとするものである。話し手の発話態度と構文の対応についてはモダリティ研究や「感情音声」研究などさまざまな先行研究があるが、情報提供や質問や推量、依頼といった比較的「おとなしい」発話態度に集中しており、我々の日常的コミュニケーションにありふれているはずの、情動的な「強い」発話態度が置き去りにされてきたという感は否めない。本論文は、我々が想像するよりも遙かに広範な「情動的」な発話にも、言語文化によって差があることを、たとえば、中国語では、相手への強い反発という発話態度に対応する構文として「あなたは誰ですか、あなた」のような２人称の重複構文が発達しているが、日本語にはこれに相当するものはないといった具体的な形で示し、従来の研究の欠落を埋めようとするものである。

本論文は全８章から構成されている。第１章では本論文の背景となる問題意識（「情動的」な発話に対する先行研究の不十分さ）や目的（先行研究の欠落を補って「情動的」な発話を明らかにすること）、考察対象（人称表現）、用いる手法（日中対照）などが、簡潔ながら理由とともに明示されている。

第２章は、日中両言語を対照するにあたっての前提を形成する、準備的な観察の章である。より具体的には、人称の３側面（語彙的側面・統語的側面・語用論的側面）から両言語の人称表現を観察し、第３章以降で展開される、「情動的」な発話態度と対応する人称表現構文の日中対照における重心を明らかにしている。その結論は、統語的側面においては日中差はほとんどない一方で、語用論的側面では大きな差が観察され、さらに語彙的側面の差の背後にも語用論的側面がうかがえるというものである。

第３章以降は、各論的な考察の章であり、第３章では人称表現の転用すなわち、人称表現を本来予定されていない人称の表現に用いる現象が扱われている。日本語における人称の転用として、反転対称（「おのれ」「われ」「てめえ」「自分」など、本来の自称表現が対称に用いられる現象）、３人称の対称詞への転用（若い女性を指して「彼女」など）が観察され、他方中国語では"zan (men)"の対称化や"人家"の特殊性が論じられている。

第４章～第６章は広義の呼びかけに関するものである。第４章では、命題から独立した呼びかけの「あんた」が日本語にはあるが中国語にはないことを指摘し、情報のなわ張り・キャラクタ・間主観化といった観点から分析が加えられている。中国語における近いものの考察は第６章で展開されており、第５章はそのための準備的な考察の章と言える。

第５章では、呼びかけという現象に注意喚起と聞き手認定があるというレヴィンソンの考えに立って、聞き手認定の呼びかけの背後に交感的コミュニケーションが認められ、感情表現として相手を呼ぶことの日中差の存在が論じられている。

第６章では、モダリティ表現の「あんた」に類似した中国語の表現として、“wo gaosi ni”のような遂行発話の明示化構文が扱われている。

第７章では、冒頭で触れた「あなたは誰ですか、あなた」のような２人称の重複構文、さらに１人称や３人称の重複構文が扱われ、消極的・否定的な態度と結びつく様子が記述され、話し手自身の客体化による構文と位置づけられている。

第８章は、第４章でも触れたキャラクタという観点から、日中両語における自称詞が論じられたもので、日本語だけでなく中国語においても、一つの発話内の中でも自称詞が安定せず動的に変化することが示されている。

最後に、全体の結論が短くまとめられて本論文は終わっている。

本論文は、人称表現の特に語用論的側面を日中対照というあくまで堅実な方法で集中的に観察することによって、伝達一辺倒のコミュニケーション観からの脱却をはかろうとした野心的な研究である。話者側にすでに十分注意している相手に対する呼びかけが、注意喚起という考えでは説明できないことを指摘し、交感的コミュニケーション観へと進む箇所など、知的興味をかき立てられる箇所が随所に見られる。各論にこだわるあまり、全体としての統一をやや失した感がなくもないが、それはかえって張氏の今後の成長を期待させてくれるものと言える。

なお、査読つき論文(1)、それに準じる論文(2)も問題なく、これらをふまえた本論文が当該領域における研究の水準を満たしていると判断できる。

(1) 張麗娜 2008「命題の外に位置する日本語の二人称表現の一考察」戴宝玉主編『日本学研究-2008年上海外国語大学日本学国際論譚論文集』. 上海外語教育出版社, pp. 202-206.

(2) 張麗娜 2008「発話キャラと日本語・中国語の自称詞」定延利之編『日本語・英語．中国語の対照に基づく、日本語の音声言語の教育に役立つ基礎資料の作成』. 平成16年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(A))研究成果報告書, pp. 119-129.

以上により、本審査委員会は審査員全員一致で、学位申請者張麗娜氏は、博士（学術）の学位を得る資格があると認める。

論 文 内 容 の 要 旨

氏 名 張 麗娜

専 攻 コミュニケーション科学専攻

指導教員氏名 定延 利之

論文題目 **発話態度と構文の日中対照**

―特に人称表現に注目して―

要旨

研究の目的

本稿は、現代日本語共通語と現代中国語共通語の人称表現を対照することによって、これまで光の当てられてこなかった「情動的」な発話態度と構文の結びつきの一端を明らかにしようとするものである。

1．背景となる問題意識：「情動的」な発話態度と構文の対応を観察する

話し手の発話態度と構文の対応について、さまざまな研究があるということは言うまでもない。いわゆるモダリティの研究はまさにこの研究と言うことができるし、聞き手が構文から発話態度を推論するプロセスに注目した語用論も、この研究に当てはまる。さらに「構文」という概念に音声面まで含めれば、「感情音声」と呼ばれる一群の音声科学的研究も、やはり発話態度と構文の対応を追求していることになる。

これらの研究に対して、その膨大さに圧倒されながらも、しかしながら一面の欠落を感じるのは筆者だけであろうか。これまでに取り扱われてきた「発話態度」が、ともすれば

情報提供や質問や推量、依頼といった比較的「おとなしい」発話態度に集中し、我々の日常的なコミュニケーションにありふれているはずの、情動的な「強い」発話態度が置き去りにされてきたという感は否めないものがある。

たしかに、情動的な発話には言語以前の原初的な部分があり、それは言語研究の射程とする必要はないかもしれない。たとえば、苦痛に耐えかねた者が発する悲鳴のあげ方が、どの言語文化圏においても違いがないとすれば、それは動物行動学の領域ではあっても、言語研究の対象にはならないかもしれない。

しかし、現実には、我々が想像するよりも遙かに広範な「情動的」な発話にも、言語文化によって差がある。たとえば、中国語では、相手への強い反発という発話態度に対応する構文として、“你是谁呀你？（「あなたは何様のつもり？」）”直訳すれば「あなたは誰ですか、あなた」）のようなものがある。これは、２人称のことば“你（「あなた」）”が命題部分（你是谁呀「あなたは誰ですか」）だけでなく文末部にも現れる構文である。この構文は言語普遍的ということではなく、他言語、たとえば日本語では、話し手の強い反発によってたまたま２人称が文末で繰り返されることはあるかもしれないが、「構文」としてこのような言い方が定まっているわけではない。

このことは、我々が発話態度と構文の研究において、「情動的」な態度にも目配りする必要があることを示している。

だが、このような「情動的」な態度と対応する構文は、これまでほとんど注目されておらず、観察されていない。このような観察はまた、人間の「情動」がどこまで前文化的で生物的に規定されており、どこから文化的な産物であるのかという、古くからの問題の解決にも究極的には役立つものであろう。

以上の認識のもと、本稿は、発話態度と構文の対応を、特に「情動的」なものに注目しながら論じようとするものである。

2．用いる手法：なぜ日中対照か？

上記の目的を達するには、「或る『情動的』な発話態度に対応する構文が言語文化ごとに違っているかどうか」を常に意識する必要がある。だが、数千と言われる現存する言語のすべてについて、これまで記述が乏しい「情動的」な態度と構文の対応を調べることは筆者の能力を遙かに超える。本稿では、筆者の第一言語である現代中国語（以下、特に断らないかぎり「中国語」と記す）と、筆者が第二言語として或る程度習得している現代日本語（以下特に断らないかぎり「日本語」と記す）の両言語の対照作業に集中して、通言語的な研究の第一歩とし、今後、さまざまな言語をフィールドとする研究者ネットワーク構築の足がかりとしたい。

3．具体的な考察対象

上記の目的を達するために、本稿では、特に人称のことば（以下「人称表現」と呼ぶ）

を取り上げる。本稿で「人称表現」と呼ぶものの品詞は、一般には人称代名詞とされることが多いが、日本語については反対説もある（鈴木[1](1973・1982・1999)[2]・田窪[3](1997)[4]）。本稿ではこの品詞特定の問題には触れず、単に「人称表現」と呼ぶにとどまる。

人称表現を取り上げるのは、先ほど挙げた中国語の例のように、情動的な態度と結びつく構文において、特に人称表現がよく現れると考えるからである。日本語においても、たとえば「貴様！」「てめえ！」「おのれ！」「わりゃ！」といった、人称表現それだけを叫ぶという単純な構文においても、「情動的」な発話態度が色濃く感じられるであろう。

但し、「情動的」な発話態度と結びつく、人称絡みの構文ではあるとはいえ、いわゆる「感情述語」の構文については本稿では言及しない。というのは、この構文は、「感情述語の人称制限」（たとえば１人称主語の「私は悲しい」は自然だが、３人称主語の「彼は悲しい」は不自然であること。仁田(1991)[5]他）と呼ばれることもある問題意識のもとで、かなりの程度、記述がなされているからである。本稿では上述のとおり、すでに光が当てられている部分を改めて取り上げ議論を深めることよりも、これまで記述されていない領域の開拓に力点を置くので、感情述語の人称制限には立ち入らない。

４．情動的発話態度に関わる場合、日中人称表現の使用実態の相違点

まず、現代日本語は、人称表現が数多く存在しているにもかかわらず、その使用は避けられる傾向がある。しかし、現代中国語では、普通、話し手の身分や職業や階層などを問わず、人称表現の使用制限がほとんどないと思われる。中国人日本語学習者が「自己主張が強い」や「話は失礼な感じがする」など、しばしば日本人の相手を不愉快にさせ、マイナス評価を受けるのは、日本語の運用際に、人称表現の過剰使用によるものが多いと考えられる。

第二に、日本語の自然会話では、(1)(2)(3)のように、人称表現は呼びかけとして聞き手に用いることがあるが、逐語訳した中国語はいずれも非文である。中国語は普通、(1")(2")のように、呼びかけとして用いられる名詞“小朋友(小さい友達/子供)”“那女孩儿(そこの女の子)”を使用しなければならない。(3)の「君」は、普通、聞き手に用いる二人称表現なので、(3')のように中国語の二人称表現“你”を用いれば正しい訳文になるはずであるが、実のところ、非文であり、(3")のように、感動詞の“喂(おい)”を用いなければならない。

(1)　[小さい男の子に対して] **ぼく**、名前は？
(1')*　**我**，叫什么？　/　(1")　**小朋友**，叫什么？
(2)　[若い女性に対して] **彼女**、ちょっと待って！
(2')*　**她**，等一下！　/　(2")　**那女孩儿**，等一下！
(3)　[気絶した人を起こすとき] **君**、しっかりしろ！**君**！**君**！**君**！
(3')*　**你**，坚持住！　**你**！**你**！**你**！
(3")　**喂(おい)**，坚持住！**喂**！**喂**！**喂**！

第三に、人称表現を避ける傾向があるとはいえ、日本語の二人称表現は、命題内の成分とは格関係を持たず、文の中に挿入することがある。(4)の「あんた」を中国語の二人称表現“你”に逐語訳した(4')は非文になる。

(4)　さいづち頭？村では**あんた**、子供らは軍艦あたまちゅうて、いじめました。
（水上勉「雁の寺」）
(4')*　木槌头？在村里，**你**，孩子们(都)叫他“军舰头”，欺负他。

一方、中国語の人称表現は(5)b のように命題内に人称があるにもかかわらず、さらに文末に現れることがある。(5)は、態度が荒れているとａに言われたｂは反発する場面であり、一人称表現と二人称表現はそれぞれ命題の後ろに現れている。逐語訳した日本語の(5')b は不自然だと思われる。

(5)a　你干嘛这么凶？
(5')a　あなたは)何を荒れてるの？
(5)b　**我**凶什么了**我**？**你**怎么了**你**？
(5')b??　**私**はどこが荒れているの**私**？　**あなた**はどうしたの**あなた**？

第四に、中国語では、学校や職場の廊下でお互いに目と目が合ったときに、挨拶代わりに、相手の名前あるいは肩書きを呼ぶことがある。しかし、日本語では、「先輩」だけ呼ぶと、その答えは「え、何？」が多かった。呼びかけ(相手を呼ぶ)という行為に対する理解の差の背後に隠れているものは何なのかを考えてみたい。

---

[1] 鈴木(1973・1985・1999)は、人称代名詞という概念は明治初期に近代日本文法先覚者たちが西欧語文法の扱いに習って導入した概念であると述べ、日本語の「わたくし」「あなた」や「ぼく」「きみ」などを人称代名詞とすることは、日本語と多くの点で構造の違う諸言語の研究から導かれた説明原理を無批判に鵜呑みして取り入れた結果であって、日本語に見られる言語的事実とは相容れない誤りであると指摘した。さらに、日本語のいわゆる人称代名詞は他の語彙から独立した、一つのまとまった語群を形態論的にも機能の見地から形作っていない以上、これだけを切り離して扱う意味がなく、むしろ、親族名詞、地位名詞などと一括して、話し手が自分を表す言葉を自称詞、聞き手を示す言葉を対称詞、対話の中に登場する第三人者を他称詞と呼ぶ方が適切であると提示している。

[2] 鈴木孝夫．1973．『ことばと文化』．岩波新書、1982．「自称詞と対称詞の比較」國廣哲彌 編『日英比較講座５文化と社会』．大修館書店、1999．「人を表わすことば」『ことばと文化　私の言語学』．岩波書店．

[3] 田窪(1997)は、形態論の見地から、人称代名詞という範疇は基本的に性数格の一致のある言語においてその一致特性のみを担う範疇であり、従って、名詞と区別された統語範疇としての代名詞は閉じた語彙で、原則的に語彙的出入りはないと述べ、日本語の人称を表わす語類は、開かれた語類であり、他の名詞類と区別する文法的理由はないので、これら語類を人称名詞と呼ぶことにしている。

[4] 田窪行則．1997．「日本語の人称表現」により

[5] 仁田義雄．1991．『日本語のモダリティと人称』．東京：ひつじ書房

最後に、現代中国語において、話し手と聞き手の社会的な位相関係などを考慮せず、いかなる場合でも、話し手を表す言葉として“我”は無条件に使用できるにもかかわらず、インターネットの掲示板や実際の会話では、“我”のほかにも、話し手を表す言葉が多様に存在している。そして、なぜ使用されるのかはほとんど説明されていない。これは日本人中国語学習者を困惑させる理由の一つと考えられる。本稿では、キャラクタ(人物像)という観点から、日中両語における自称詞の実態を論じたい。

(6) ~偶才不会骗你涅~~

(6') ~私はあなたを騙すことはしないよ~~)

[2006年10月4日 forum.y.sina.com.cn/cgi-bin/viewone.cgi?gid=41&fid=156&itemid=152699]

(7) 哈囉~哈囉~來也囉~~*在下又來也~

(7') Hello~Hello~拙者が来たでござるよ~~*拙者はまた来たでござる~

[2006年11月5日 tw.myblog.yahoo.com/aone440721/guestbook]

(8) 三鹿奶粉出现问题，本人认为问题出在河北省领导层的管理机制上！

(8') 三鹿(メーカー)の粉ミルク問題に関して、(私)本人は、華北省指導層の管理機能に問題があると思う。

[2008年09月20日 bbs.people.com.cn/postDetail.do?boardId=1&treeView=1&view=2&id=88402143]

以上概観したように、本稿では、先行研究を踏まえながら、現代日中両言語の発話態度に関わる場合、人称の使用実態を検討したうえで、その相違点をもたらした要因の解明を試みる。